

高校卒業後の進学や就職に関する調査（速報版）

1. 調査概要

調査対象	県内5地域で県外進学率の高い県立高等学校19校に在学する3年生 ※各地域の調査対象が1,000人程度になるよう各地域で上位3～4校を選定
調査期間	平成27年6月26日～7月6日
実施方法	インターネットアンケート
回答数	1,195名

2. 調査結果

(1) 希望する進学場所 ～『県外』が約5割で、県外のうち『東京圏』が約8割～

- 希望する進学場所は「県外」が52.6%で最も多く、次いで、「県内」が25.0%、「どちらでもよい」が22.4%であった。
- 「県外」のうち、希望する地域は、「東京圏」が79.8%であった。

図1 希望する進学場所

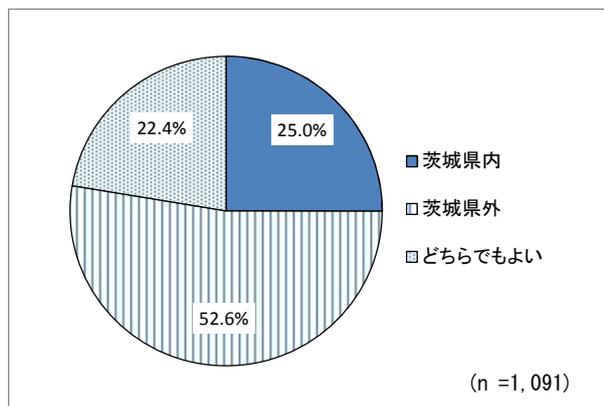
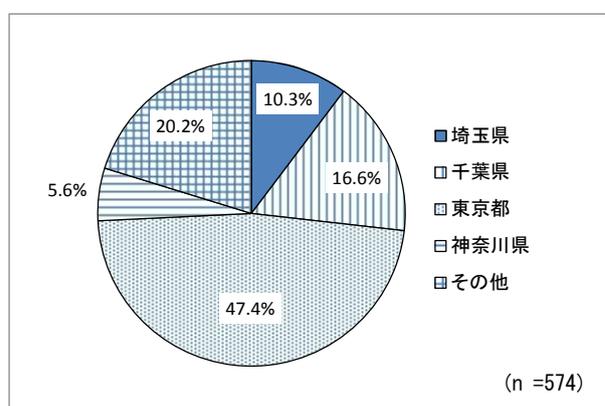


図2 県外進学希望者が希望する都道府県

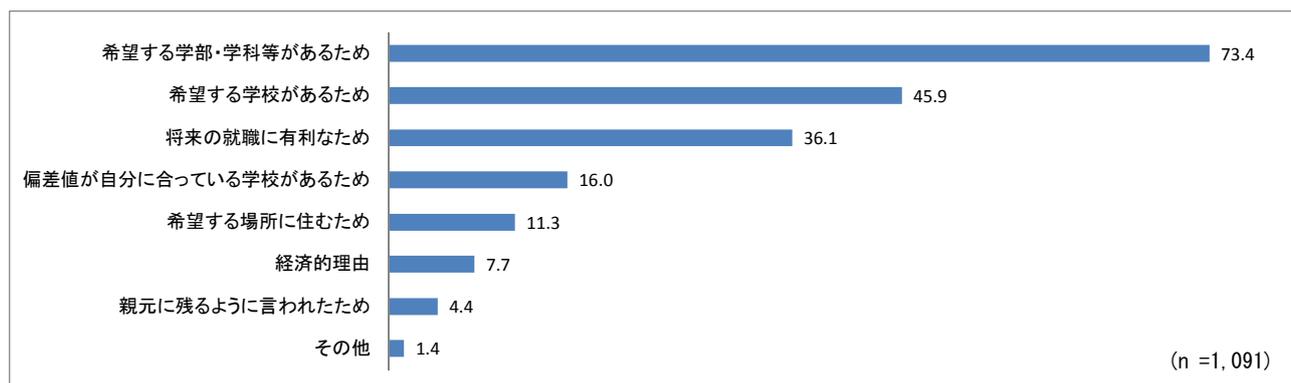


(2) 希望する進学場所を選んだ理由

～『希望する学部・学科等があるため』が約7割～

- 希望する進学場所を選んだ理由は、「希望する学部・学科等があるため」が73.4%で最も多く、次いで、「希望する学校があるため」が45.9%、「将来の就職に有利なため」が36.1%となった。

図3 希望する進学場所を選んだ理由（3つ選択）



(3) 進学先を卒業後、就職するときに希望する場所

～『県内』、『県外』がともに約2割、『どちらでもよい』が約5割～

- 進学先を卒業後、就職するときに希望する場所は、「県内」、「県外」がともに約20%で、「どちらでもよい」が53.7%となった。
- 「県外」のうち、希望する地域は、「東京圏」が77.6%であった。

図4 進学先を卒業後、就職するときに希望する場所

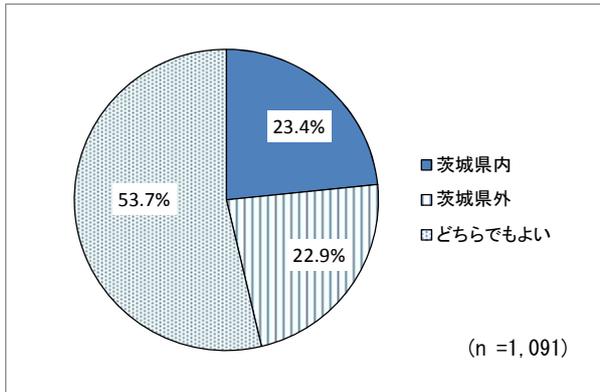
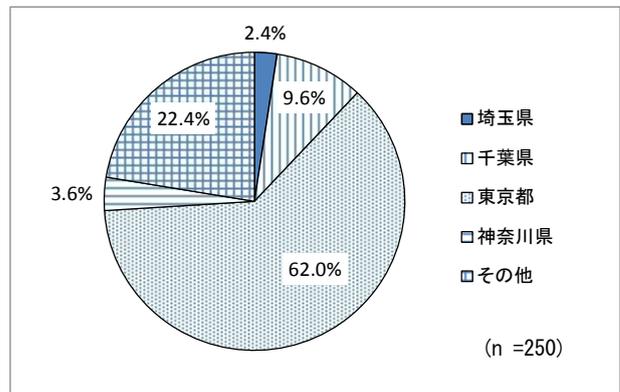


図5 県外就職希望者が希望する都道府県



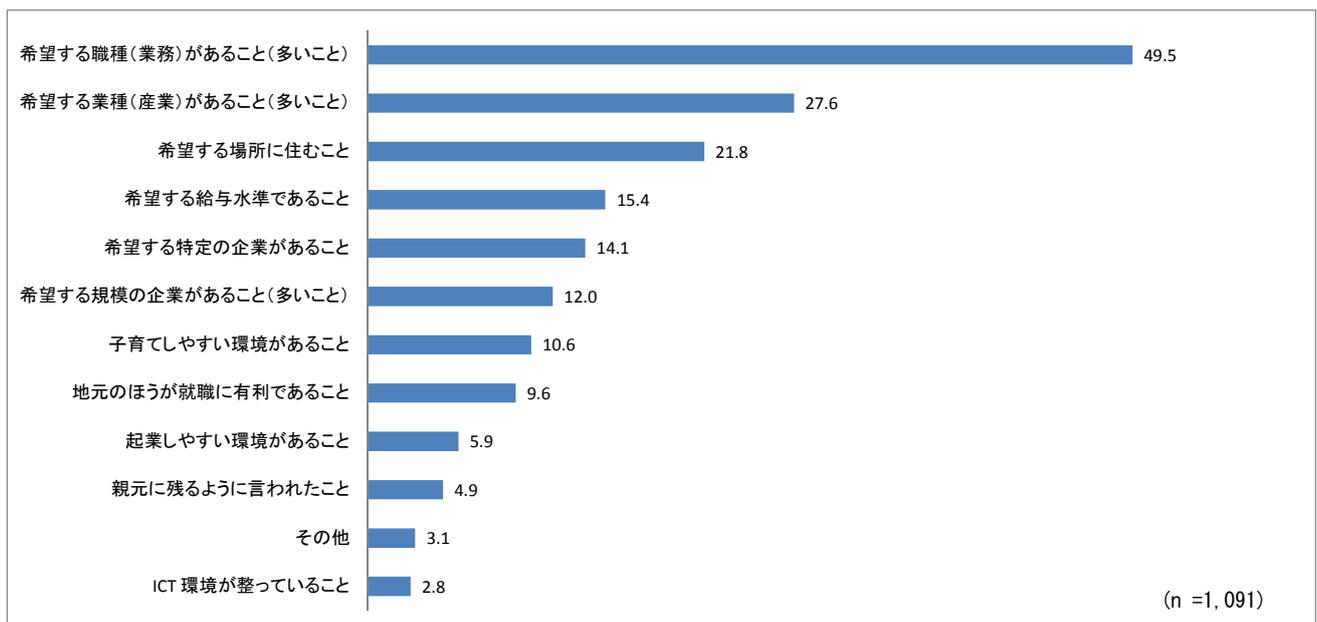
(4) 希望する就職場所を選んだ理由

～『希望する職種（業務）があること』が約5割～

① 全体集計

- 希望する就職場所を選んだ理由は、「希望する職種（業務）があること」が49.5%で最も多く、次いで、「希望する業種（産業）があること」が27.6%、「希望する場所に住むこと」が21.8%となった。

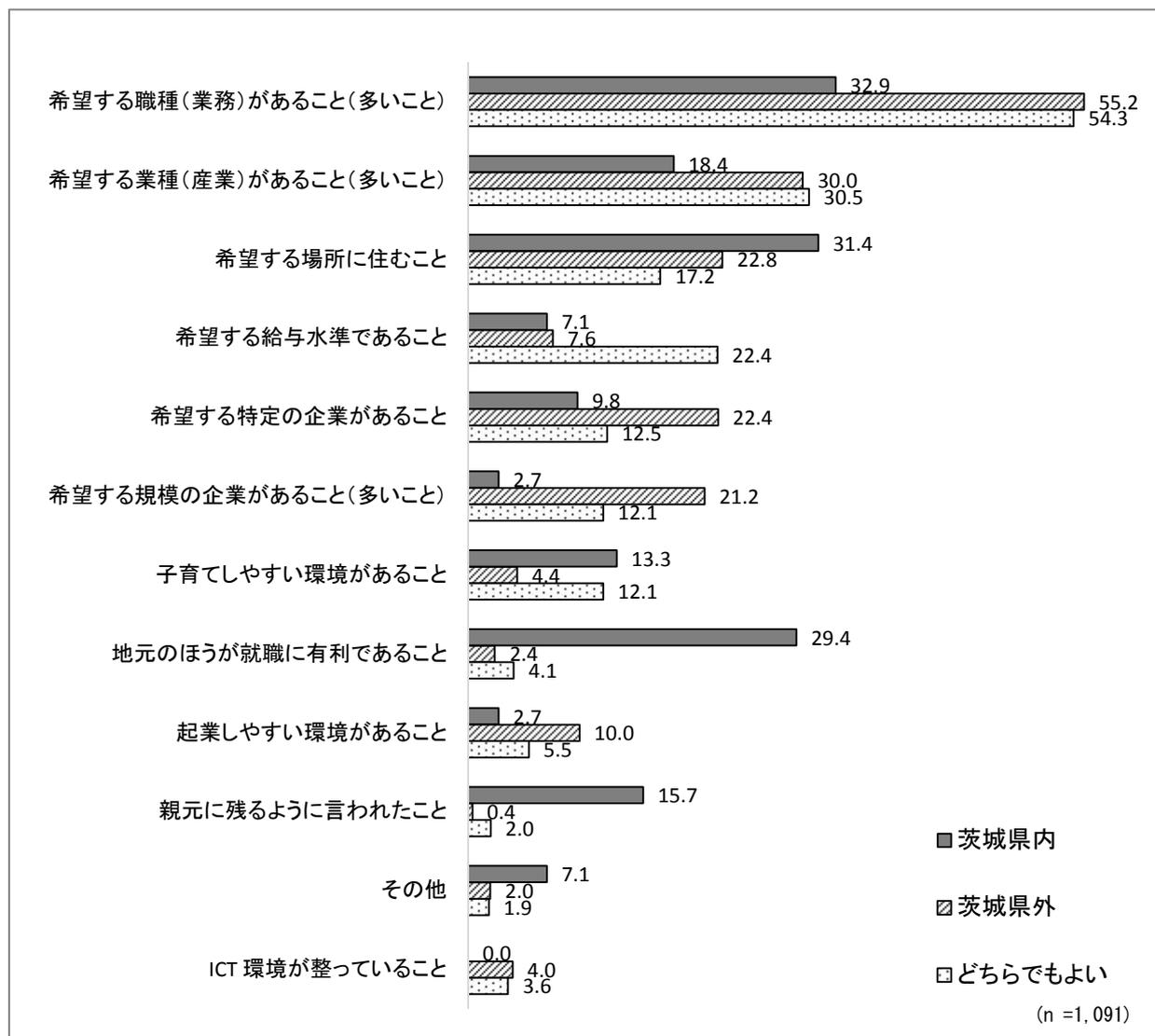
図6-1 希望する就職場所を選んだ理由（3つ選択）（全体）



② 就職場所の希望別（(3)の「県内」、「県外」、「どちらでもよい」）

- 「県外」を希望した者は、「希望する職種があること」や「希望する業種があること」が上位となり、「県内」を希望した者に比べ、割合が高かった。
- 一方、「県内」を希望した者は、「希望する職種があること」が最も多いが、「希望する場所に住むこと」、「地元の方が就職に有利であること」も同程度で高い割合となった。

図 6-2 希望する就職場所を選んだ理由（就職場所の希望別）

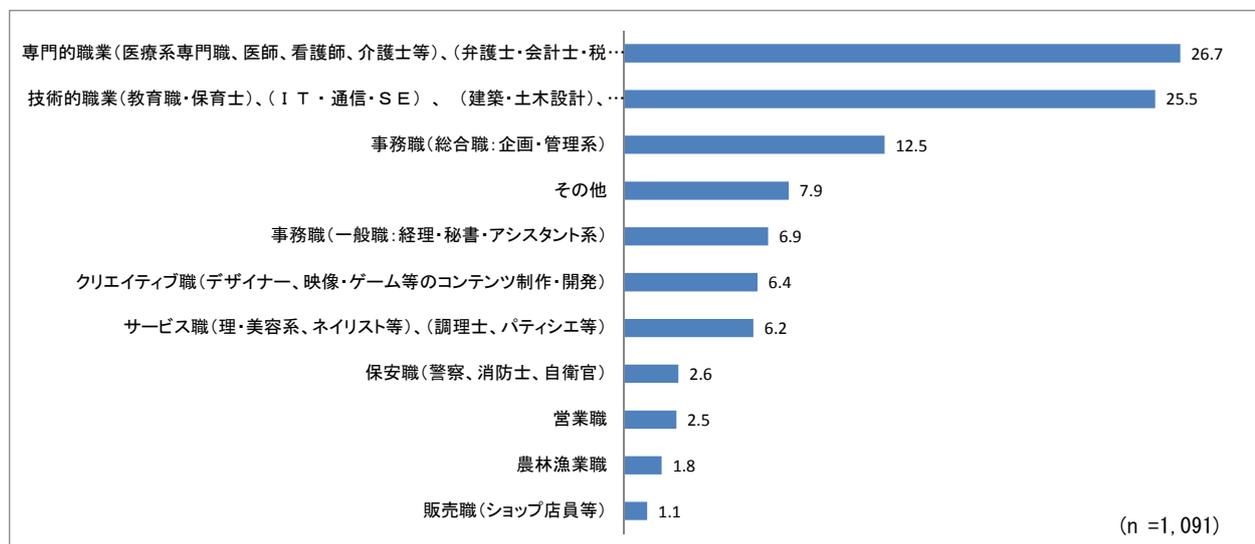


(5) 将来どのような職種に就きたいか ～『専門的職業』が最も多い～

① 全体集計

- 将来、希望する職種は、「専門的職業」が26.7%で最も多く、次いで、「技術的職業」が25.5%、「事務職（総合職）」が12.5%となった。

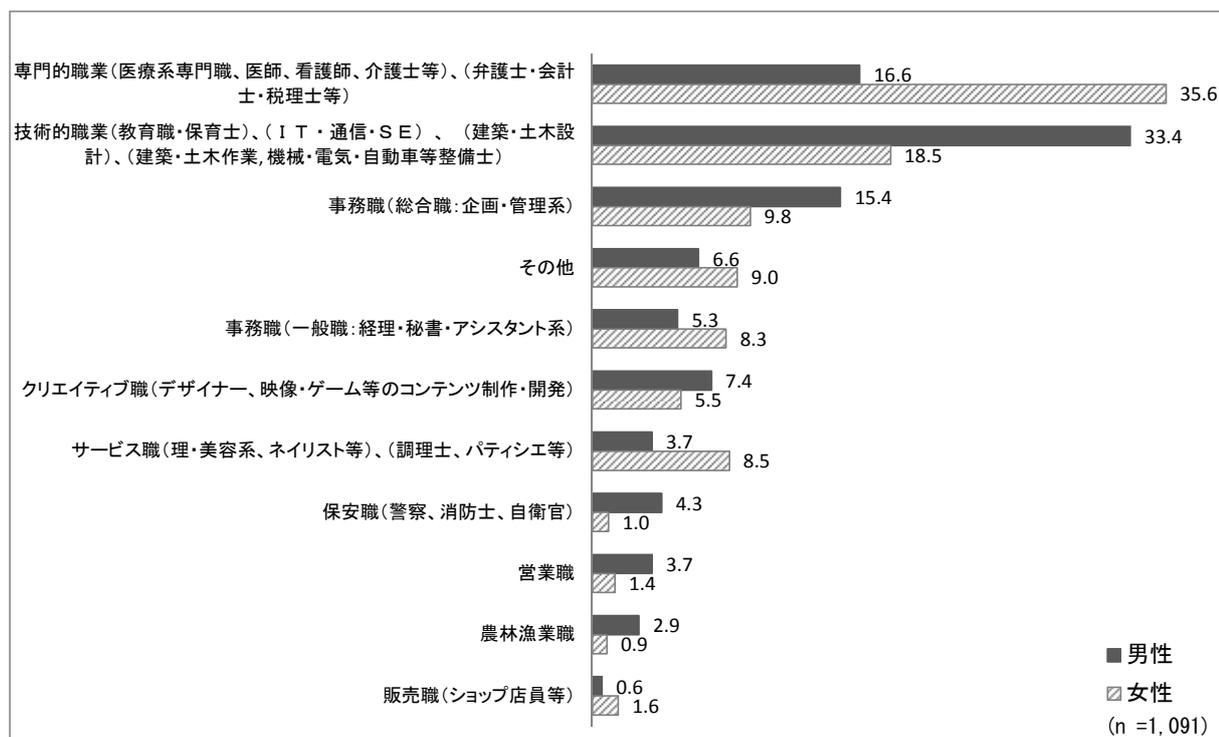
図7-1 将来どのような職種に就きたいか（全体）



② 性別

- 男性は、「技術的職業」が最も多く、女性は、「専門的職業」が最も多くなった。

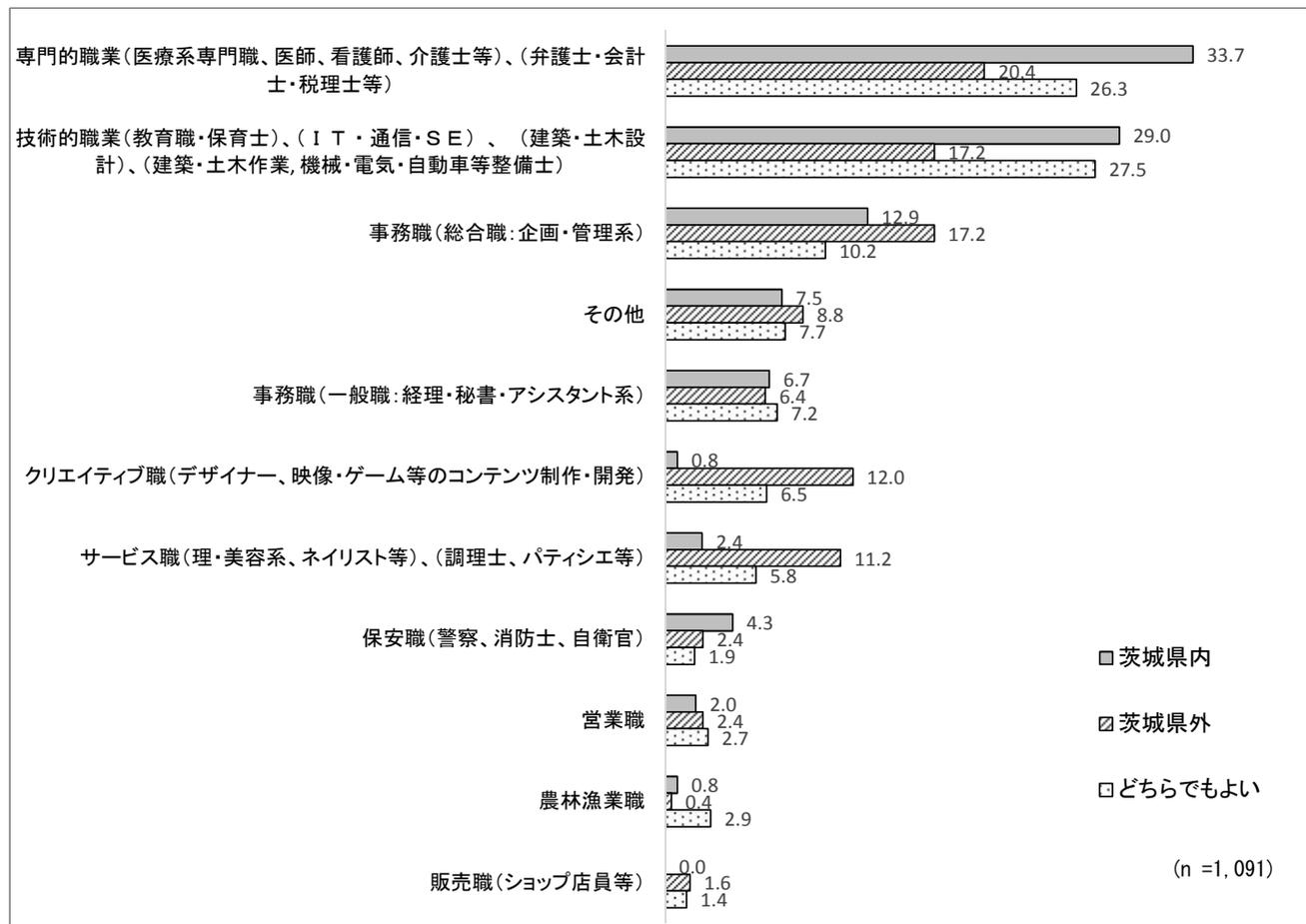
図7-2 将来どのような職種に就きたいか（性別）



③ 就職場所の希望別

- 「県外」を希望した者は、「県内」を希望した者に比べ、「事務職（総合職）」、「クリエイティブ職」の割合が高かった。
- 一方、「県内」を希望した者は、「県外」を希望した者に比べ、「専門的職業」、「技術的職業」の割合が高かった。

図 7-3 将来どのような職種に就きたいか（就職場所の希望別）

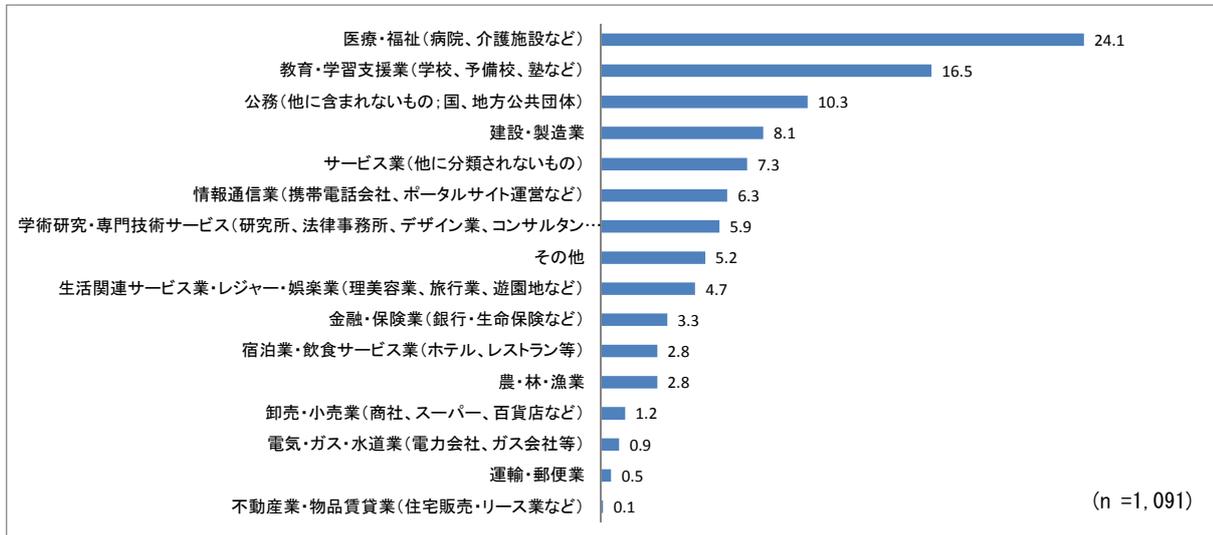


(6) 将来どのような業種で働きたいか ～『医療・福祉』が最も多い～

① 全体集計

- 将来、希望する業種は、「医療・福祉」が 24.1%で最も多く、次いで、「教育・学習支援業」が 16.5%、「公務」が 10.3%となった。

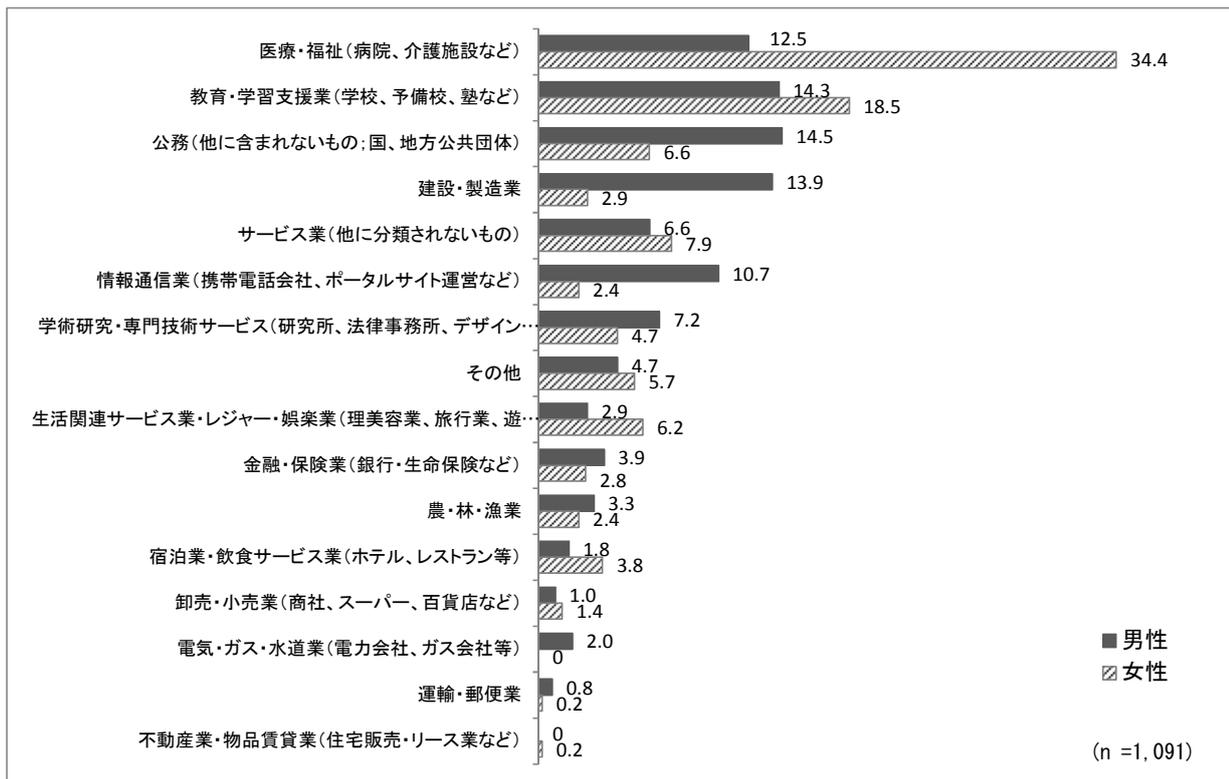
図 8-1 将来どのような業種で働きたいか（全体）



② 性別

- 男性は、女性と比べ、「公務」や「建設業・製造業」、「情報通信業」の割合が高くなった。
- 一方、女性は、「医療・福祉」や「教育・学習支援事業」、「生活関連サービス業・レジャー・娯楽業」の割合が高くなった。

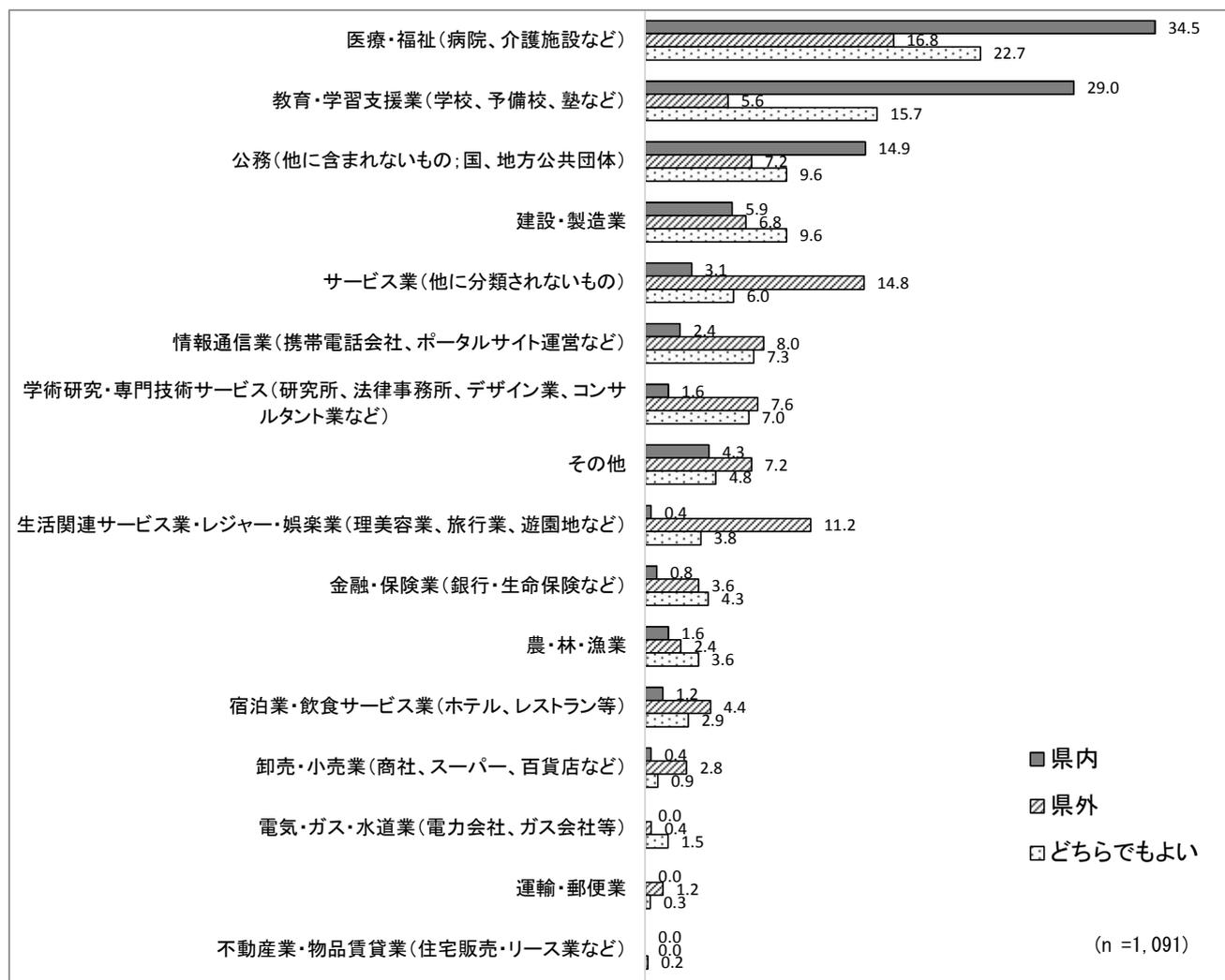
図 8-2 将来どのような業種で働きたいか（性別）



③ 就職場所の希望別

- 「県外」を希望した者は、「県内」を希望した者に比べ、「サービス業」や「生活関連サービス業・レジャー・娯楽業」の割合が高かった。
- 「県内」を希望する者は、「県外」を希望した者に比べ、「医療・福祉」や「教育・学習支援事業」、「公務」の割合が高かった。

図 8-3 将来どのような業種で働きたいか（就職場所の希望別）



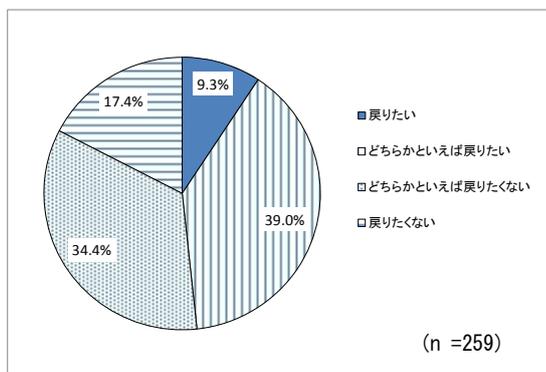
(7) 将来的に茨城県に戻りたいと思うか

～『戻りたい』と『戻りたくない』は約5割で拮抗～

① 全体集計

- 希望する就職場所を「県外」と回答した者のうち、将来的に茨城県に「戻りたい」又は「どちらかといえば戻りたい」と回答した割合は48.3%、「戻りたくない」又は「どちらかといえば戻りたくない」と回答した割合は51.8%となった。

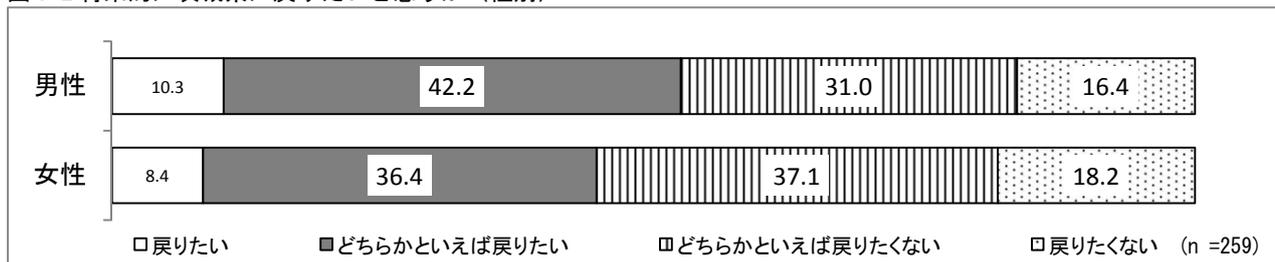
図9-1 将来的に茨城県に戻りたいと思うか（全体）



② 性別

- 将来的に茨城県に「戻りたくない」又は「どちらかといえば戻りたくない」と回答した割合は、「男性」より「女性」の方が高くなった。

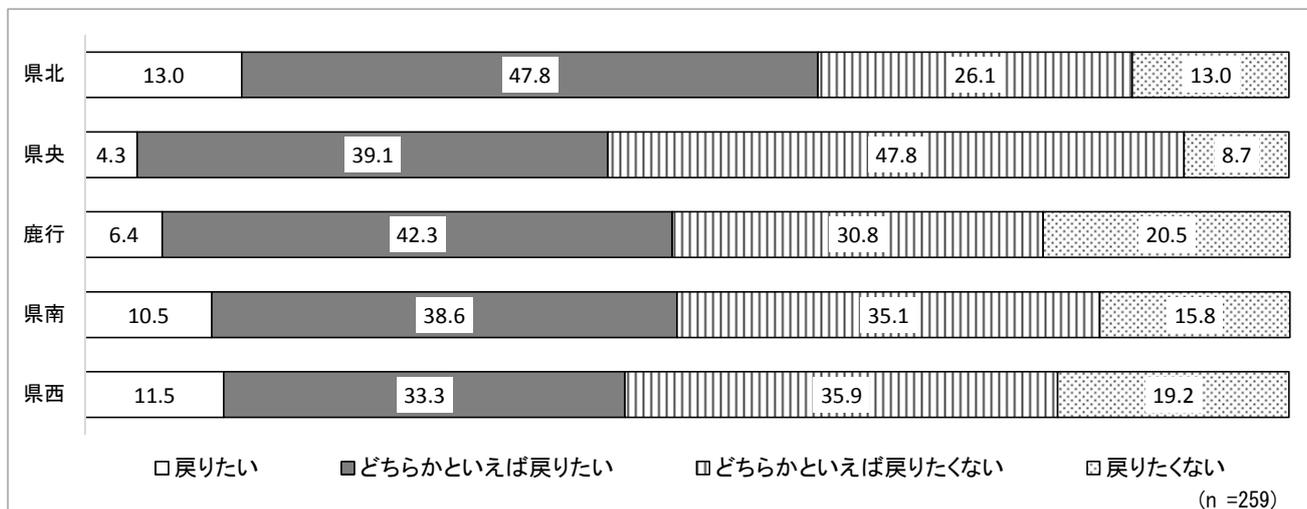
図9-2 将来的に茨城県に戻りたいと思うか（性別）



③ 地域別

- 将来的に茨城県に「戻りたい」又は「どちらかといえば戻りたい」と回答した割合は、「県北地域」が最も高く、「県央地域」が最も低くなった。

図9-3 将来的に茨城県に戻りたいと思うか（地域別）



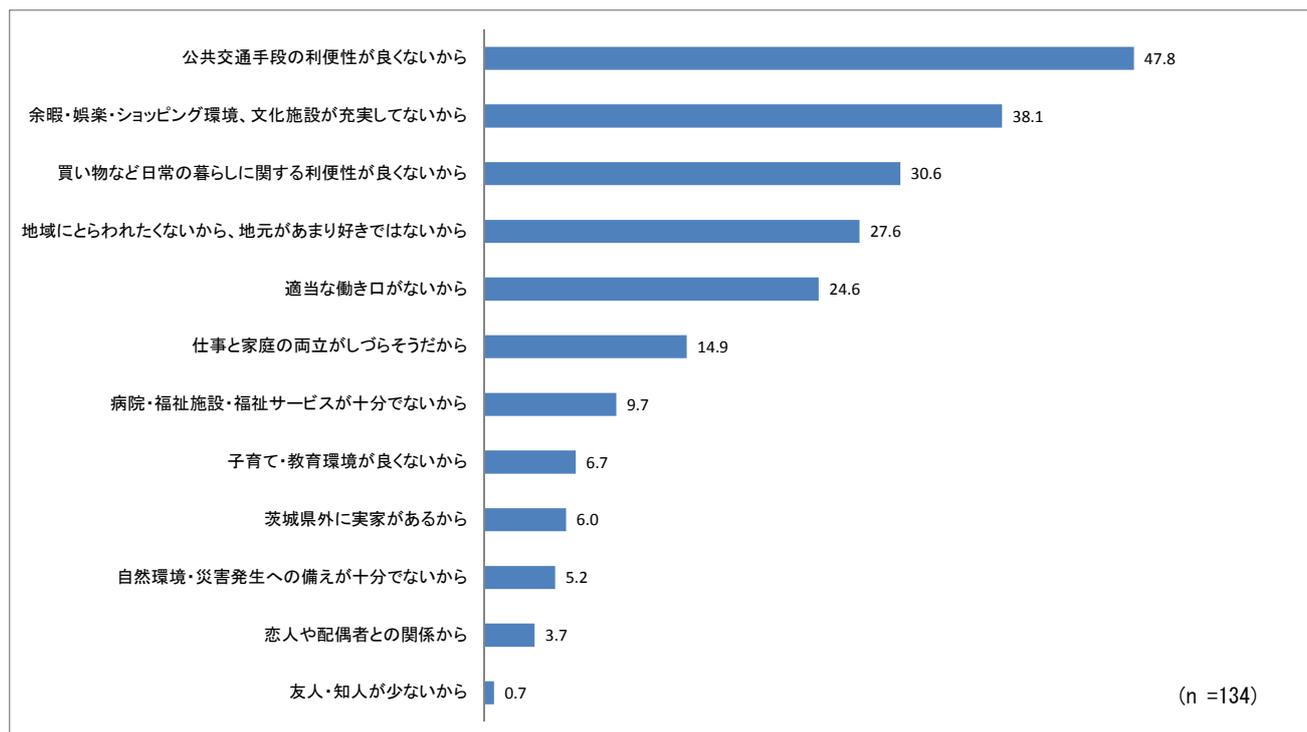
(8) 将来的に茨城県に戻りたくないと思う理由

～『公共交通手段の利便性が良くないから』が最も多い～

① 全体集計

- 将来的に茨城県に戻りたくないと思う理由は、「公共交通手段の利便性が良くないから」が47.8%で最も多く、次いで、「余暇・娯楽・ショッピング環境、文化施設が充実していないから」が38.1%、「買い物など日常の暮らしに関する利便性が良くないから」が30.6%となった。

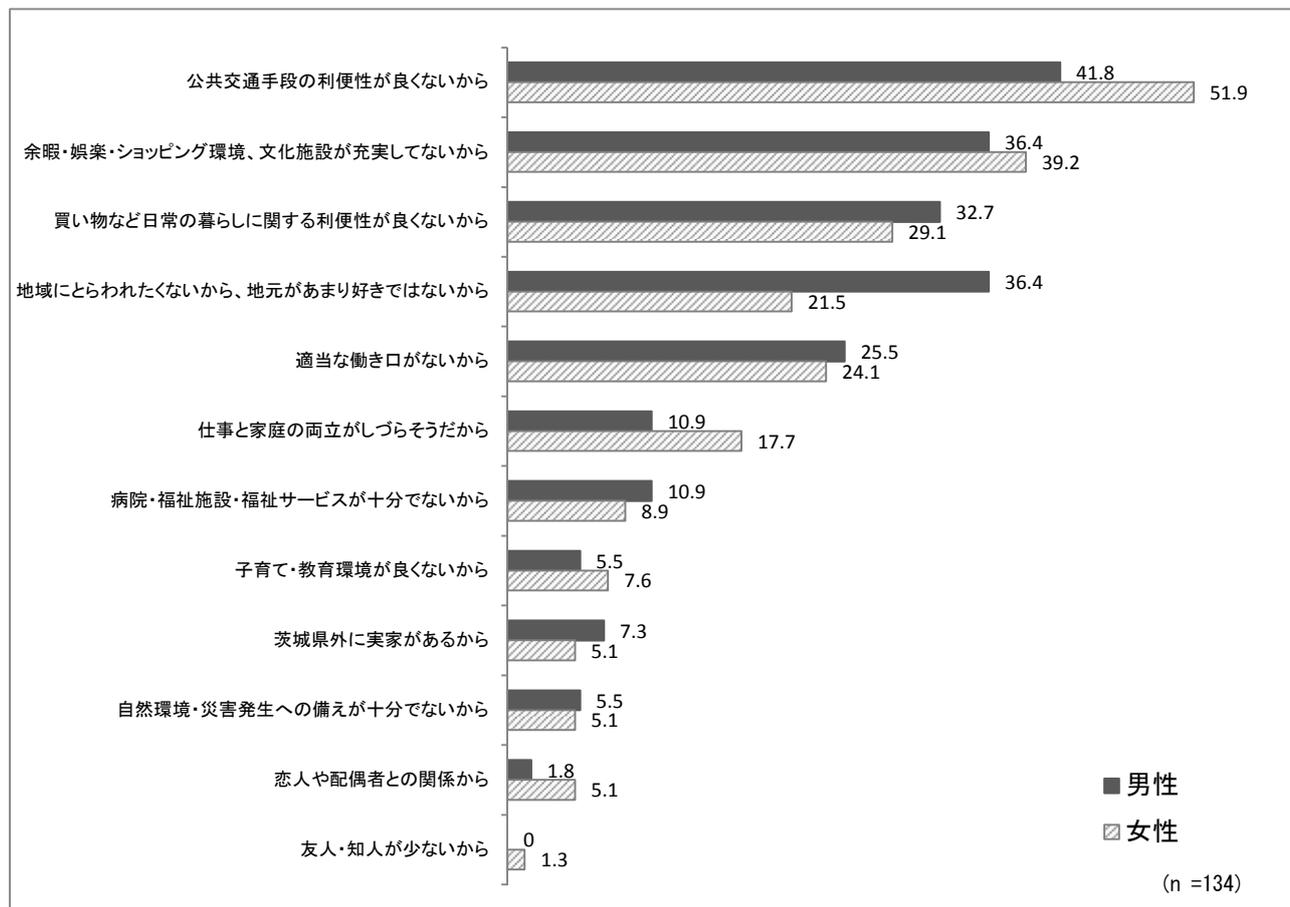
図 10-1 将来、茨城県に戻りたくないと思う理由（複数選択）（全体）



② 性別

- 男性は、女性と比べ、「地域にとらわれたくないから、地元があまり好きではないから」の割合が高くなった。
- 一方、女性は、男性と比べ、「公共交通手段の利便性が良くないから」や「仕事と家庭の両立がしづらそうだから」の割合が高くなった。

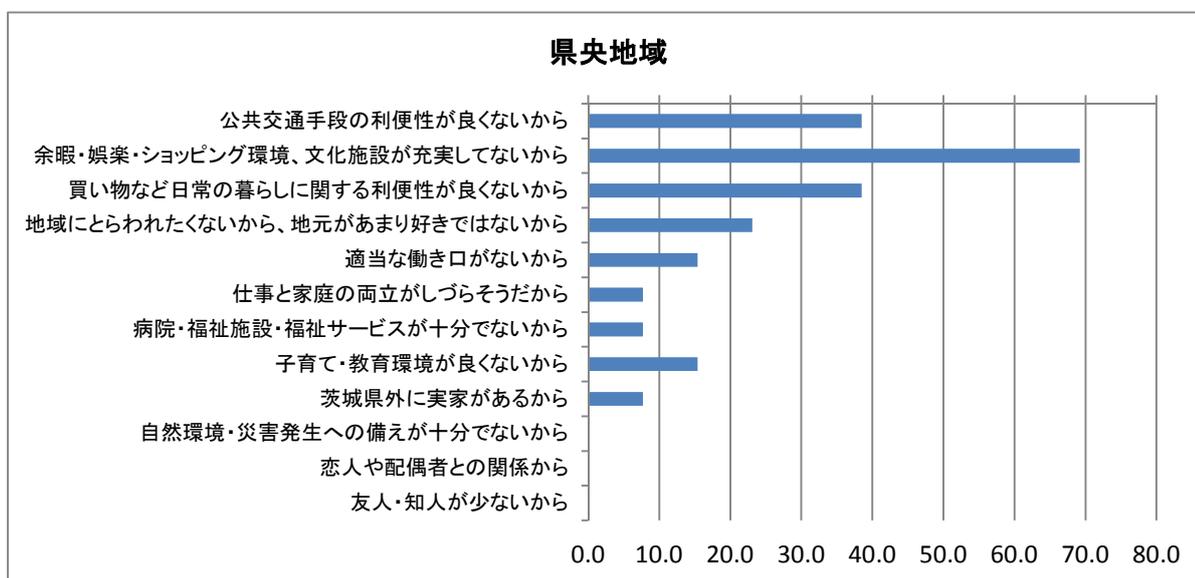
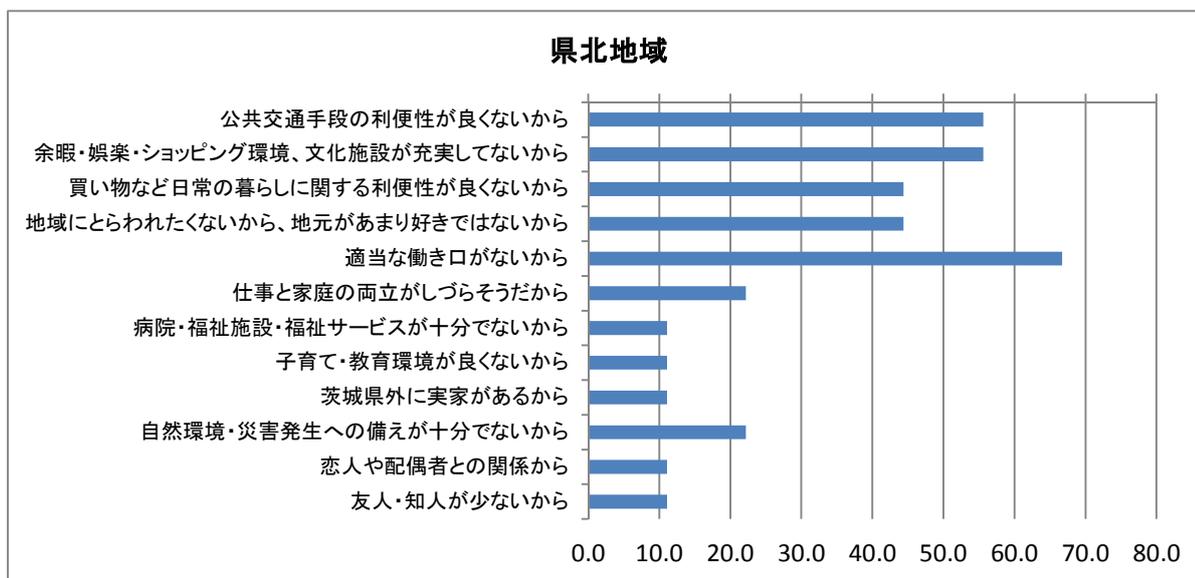
図 10-2 将来的に茨城県に戻りたくない理由（性別）



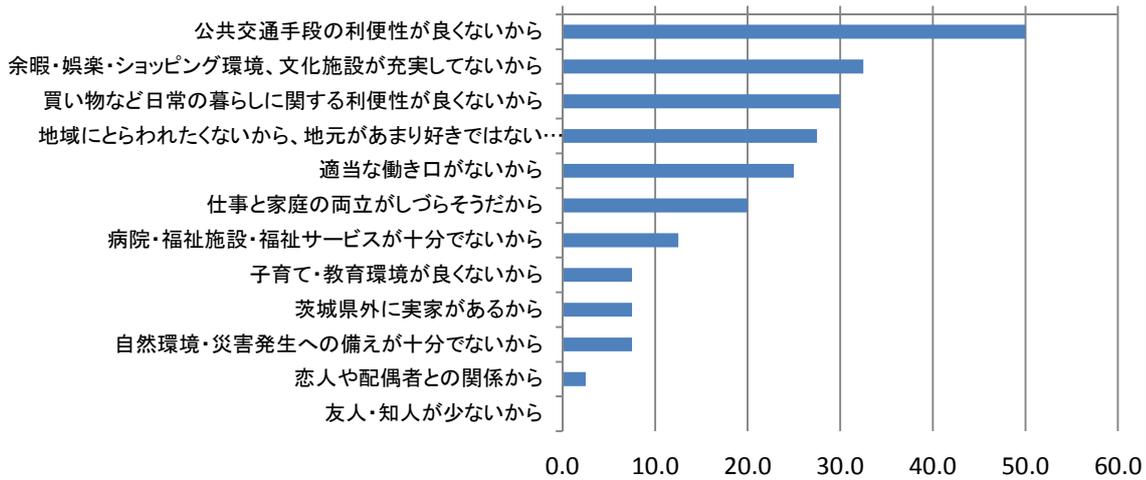
③ 地域別

- 県北地域では、「適当な働き口がないから」が最も高く、次いで、「公共交通手段の利便性が良くないから」、「余暇・娯楽・ショッピング環境、文化施設が充実していないから」となった。
- 県央地域では、「余暇・娯楽・ショッピング環境、文化施設が充実していないから」が最も高く、次いで、「公共交通手段の利便性が良くないから」、「買い物など日常の暮らしに関する利便性が良くないから」となった。
- 鹿行地域では、「公共交通手段の利便性が良くないから」が最も高く、次いで「余暇・娯楽・ショッピング環境、文化施設が充実していないから」となった。
- 県南地域では、「余暇・娯楽・ショッピング環境、文化施設が充実していないから」が最も多く、次いで、「公共交通手段の利便性が良くないから」となった。
- 県西地域では、「公共交通手段の利便性が良くないから」が最も多く、次いで、「余暇・娯楽・ショッピング環境、文化施設が充実していないから」、「地域にとらわれたくないから、地元があまり好きではないから」となった。

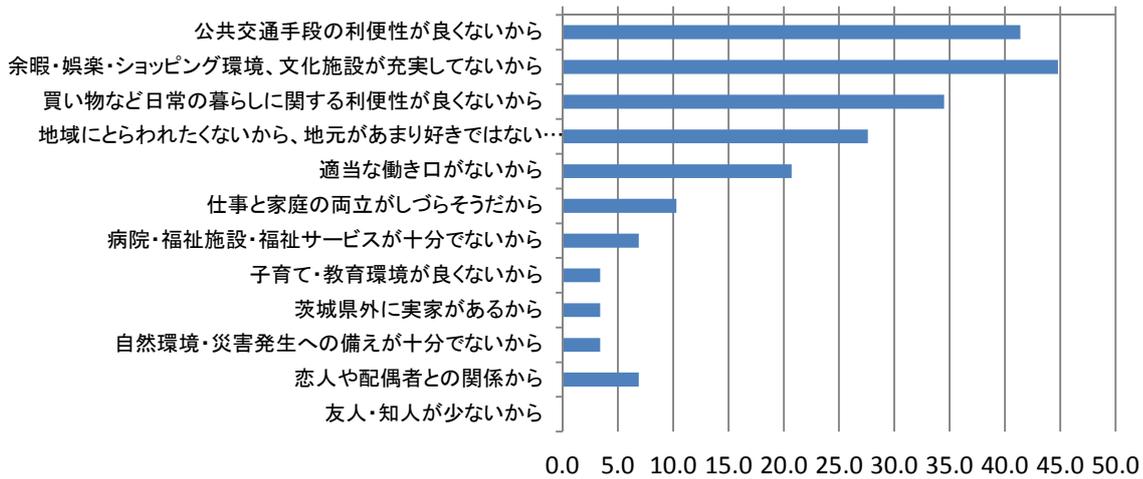
図 10-3 将来的に茨城県に戻りたくない理由（地域別） n=134



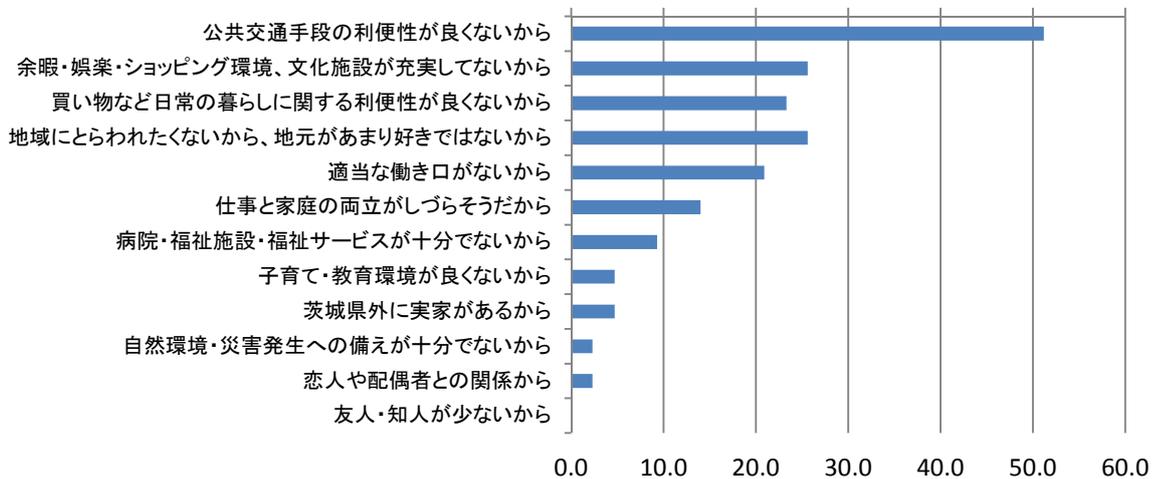
鹿行地域



県南地域



県西地域

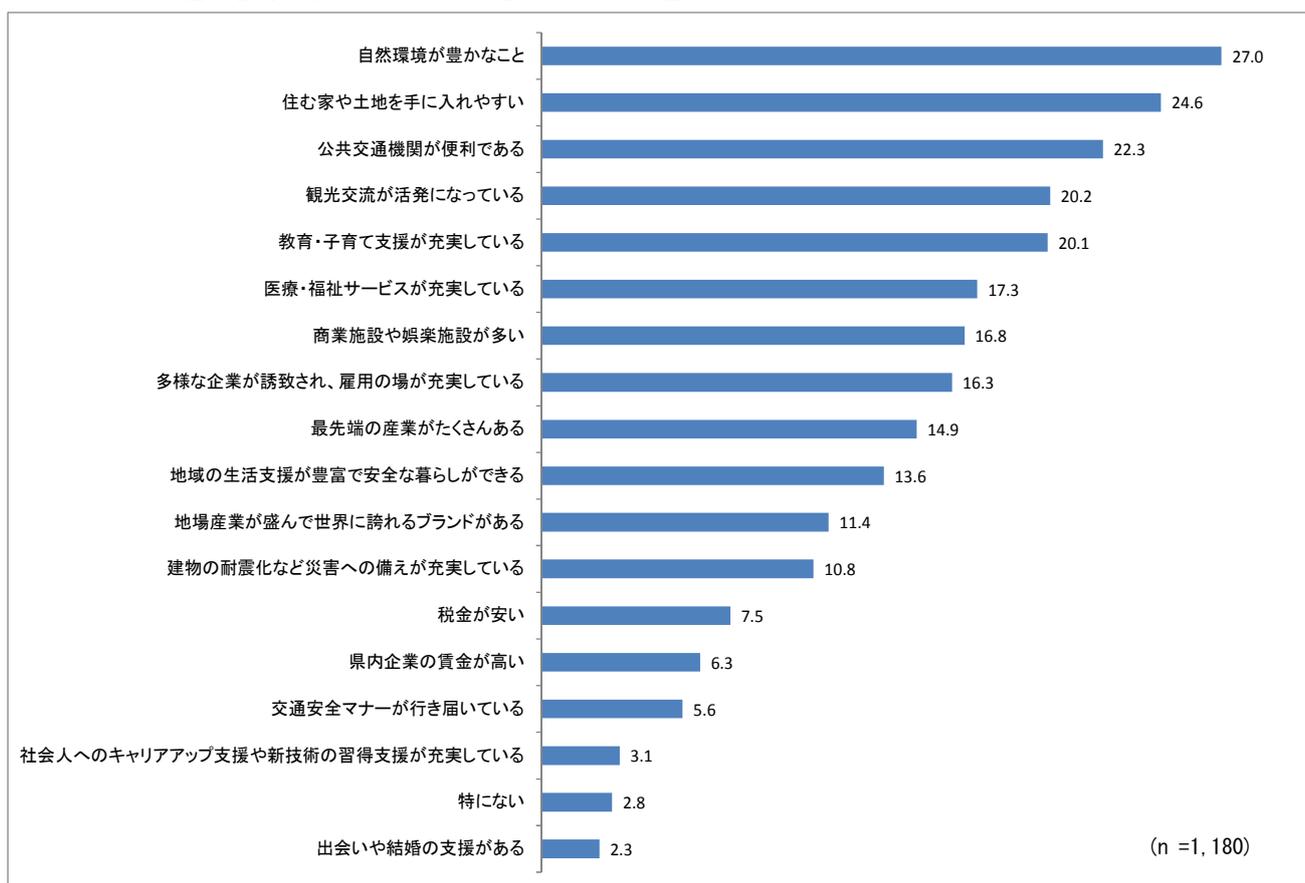


(9) 県の魅力を高めていくために大切だと思うこと
 ～『自然環境が豊かなこと』が最も多い～

① 全体集計

○ 県の魅力を高めていくために大切だと思うことは、「自然環境が豊かなこと」が27.0%で最も多く、「住む家や土地を手に入れやすい」が24.6%、「公共交通機関が便利である」が22.3%となった。

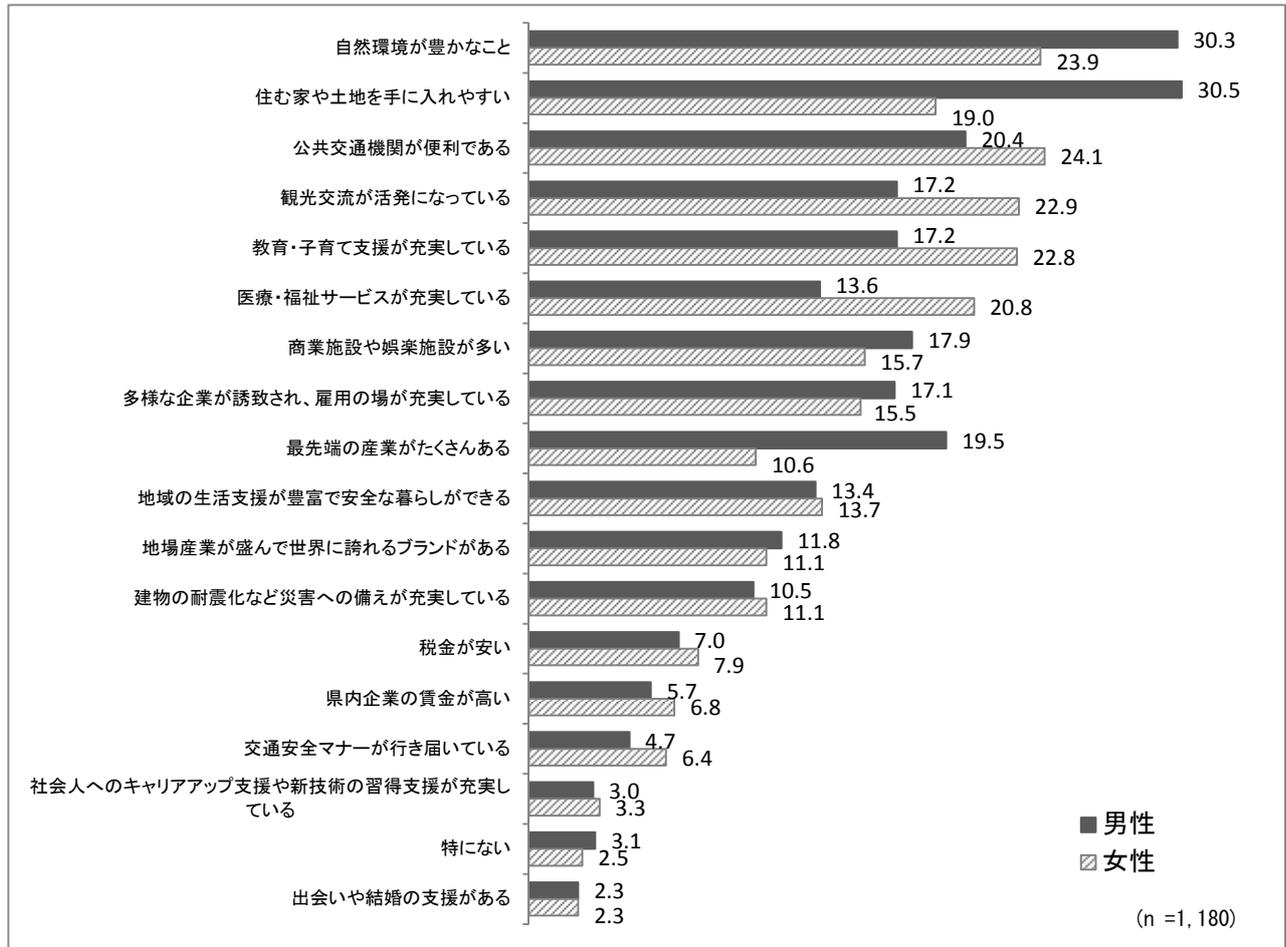
図 11-1 県の魅力を高めるために大切だと思うこと（3つ選択）（全体）



② 性別

- 男性は、女性に比べ、「自然環境が豊かなこと」や「住む家や土地を手に入れやすいこと」、「最先端の産業がたくさんあること」の割合が高かった。
- 一方、女性は、男性に比べ、「公共交通機関が便利であること」や、「観光交流が活発になっていること」、「教育・子育て支援が充実していること」、「医療・福祉サービスが充実していること」の割合が高かった。

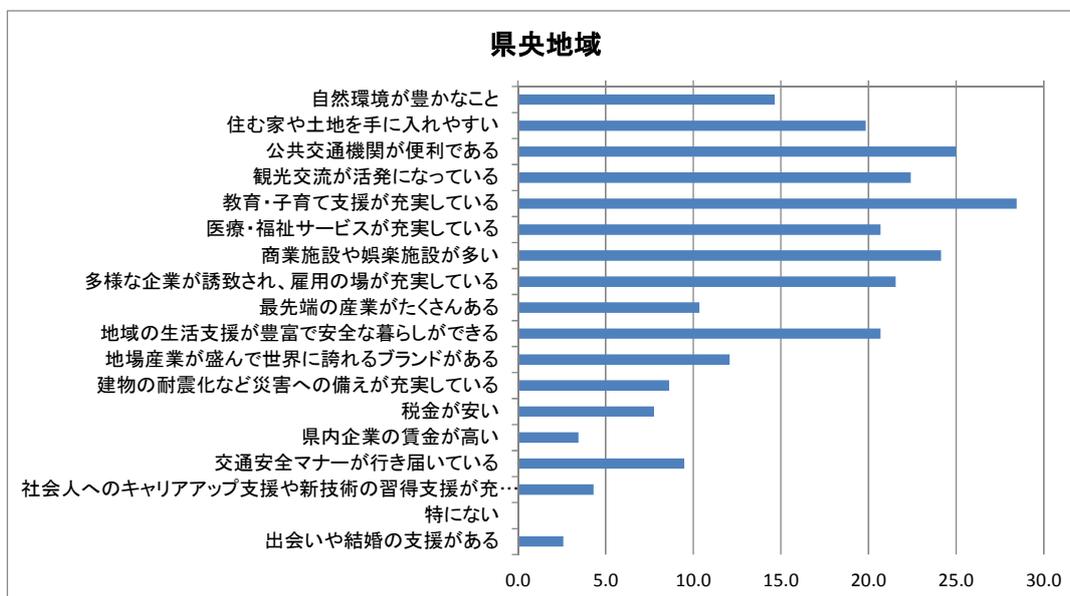
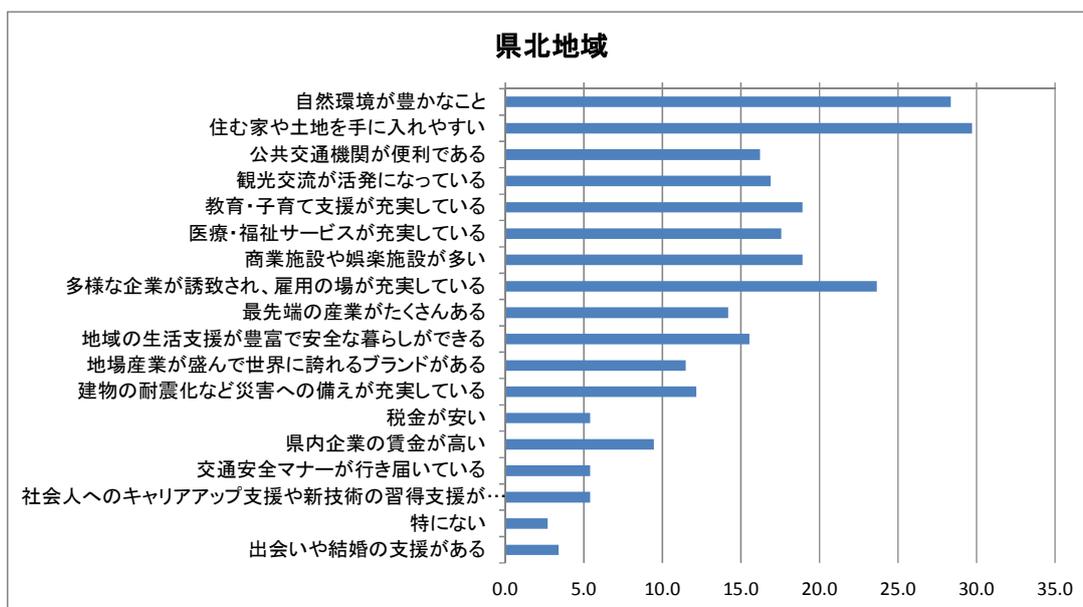
図 11-2 県の魅力を高めるために大切だと思うこと（性別）

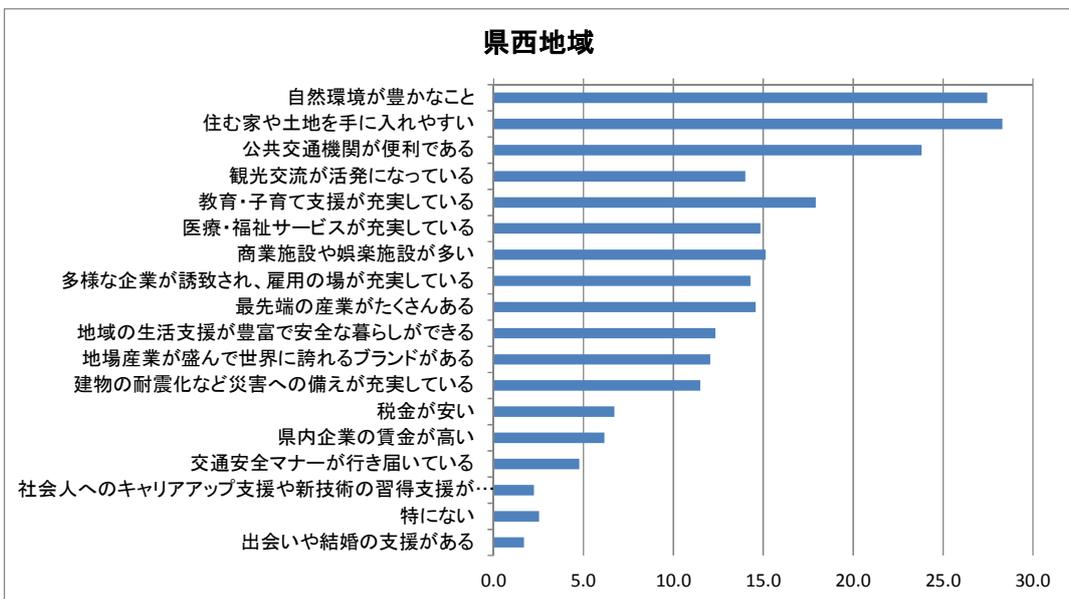
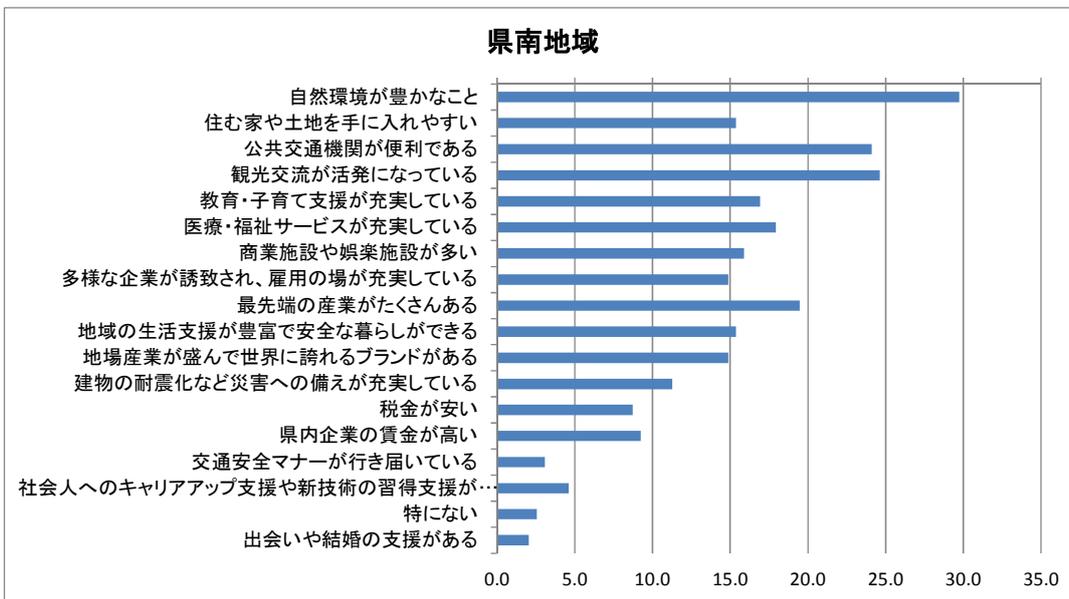
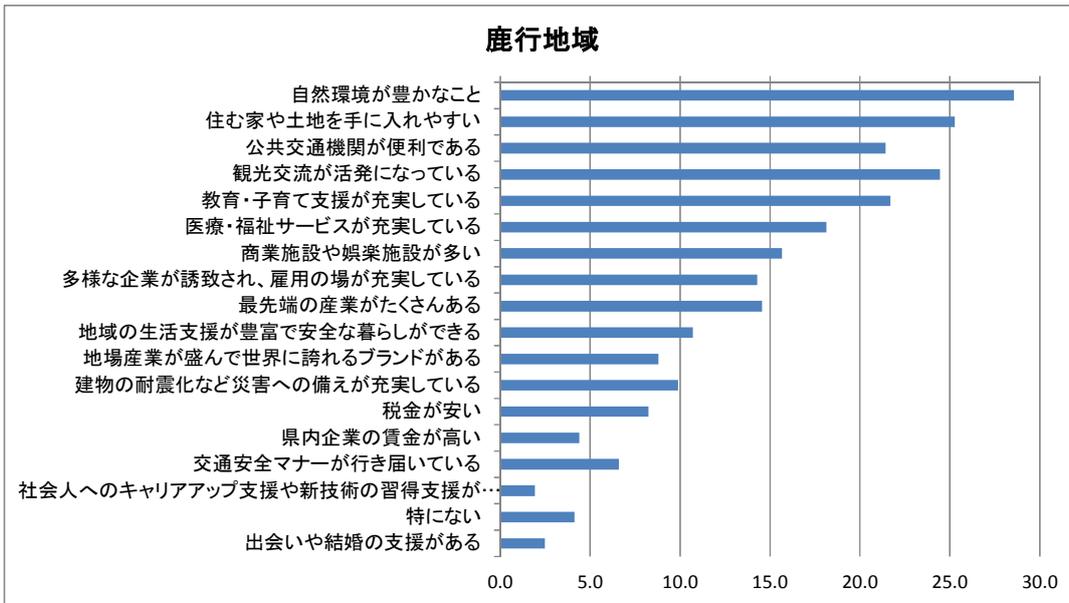


③ 地域別

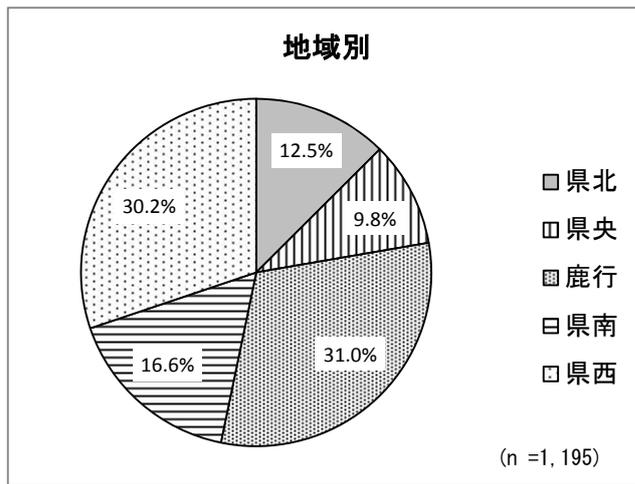
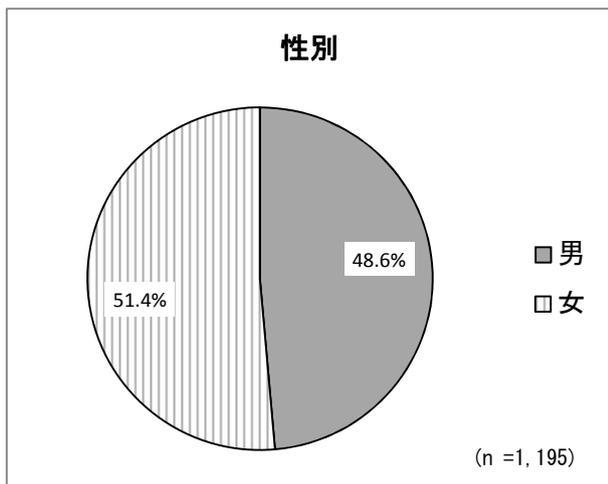
- 県北地域，鹿行地域，県西地域では，「自然環境が豊かなこと」，「住む家や土地を手に入れやすいこと」の割合が高かった。
- 県央地域では，「教育・子育て支援が充実していること」，「公共交通機関が便利であること」の割合が高かった。
- 県南地域では，「自然環境が豊かなこと」，「観光交流が活発になっていること」の割合が高かった。

図 11-3 県の魅力を高めるために大切だと思うこと（地域別） n=1,180





【参考 1】回答者の属性



【参考 2】県内高等学校卒業者の進学・就職の状況

	全生徒 総数	進学（大学・短大のみ） ※通信制除く		進学（大学・短大・専門学校等）		就職	
		進学者数 （%）	県内進学者数 （%）	進学者数 （%）	県内進学者数 （%）	就職者数 （%）	県内就職者数 （%）
H25 年度 卒業生	24, 897	12, 298 (49. 4)	2, 956 (24. 0)	18, 484 (74. 2)	5, 169 (28. 0)	5, 209 (20. 9)	4, 549 (87. 3)
うち 男性	12, 670	6, 200 (48. 9)	1, 160 (18. 7)	9, 063 (71. 5)	2, 145 (23. 7)	3, 093 (24. 4)	2, 674 (86. 5)
うち 女性	12, 227	6, 098 (49. 9)	1, 796 (29. 5)	9, 421 (77. 1)	3, 024 (32. 1)	2, 116 (17. 3)	1, 875 (88. 6)

※出典：平成 26 年度教育調査報告書（県教育庁総務課）